

中学年分科会の成果と課題

《成果》

- 毎時間、技を習得するための基礎となる予備運動（アンテナ・ブリッジ）を行うことで、児童にあふりの感覚をつかませるきっかけを作ることができた。（指導計画の工夫）
- 回転系横跳び越しは、またぎこしができない児童も腰を上げて行うことができた。（指導計画の工夫）
- 跳び箱にマットを敷いたことで、児童の恐怖感を軽減させ、安心感をもって挑戦しようとする意欲を高めることができた。（場の工夫）
- ICT を使って動画を自分で確認したことで、自分の体の動きを客観視することができ、多くの気づきを得ることができた。（ICT の活用）
- 準備・片付けに時間がとられてしまう跳び箱でも、効率的な準備を行うことで、授業時間の確保をすることができた。（指導計画の工夫）

《課題》

- ワークシートを使用する際、授業の中での児童の気づきを可視化できるように工夫して作成し、振り返りを通してそこからの学びを大切にすることが必要であった。
- スモールステップを大切に、小さい時から感覚作りを積み重ねることで、「やってみよう」「できそうだ」という意欲を高める必要がある。

文言

指導講評 吉澤 潤先生

どの子にも運動の楽しさを味わわせるためには、系統性に基づいて、科学的に学習を進めることが大切であることを教えていただいた。

また、技術を向上させるためには、3つのポイント（①形態②意識③視点）を教師が意識しながら指導をすることが大切であることも実技研修を通して教えていただいた。

